

神戸昇天教会月報

☎652-0015 神戸市兵庫区下祇園町39番7号 神戸昇天教会

牧師 小南 晃 電話 (078) 361-4490
 編集 「月報」編集委員 FAX (078) 361-4539
 振替口座 01110-2-10517

今年の標語

「来てみませんか」と、誘える教会を目指そう。

努力目標

- ◎ 祈り合う交わり。
- ◎ 宣教協議会を開く。
- ◎ 教会ホームページとリーフレット作成。
- ◎ 地域との交流促進。

聖語 喜ぶ人とともに喜び、泣く人とともに泣きなさい(ロマ12:15)。

被災地視察訪問について

喜ぶ人とともに喜び、泣く人とともに泣きなさい(ロマ12:15)

司祭 ミカエル 小南 晃

今年の聖語は「喜ぶ人とともに喜び、泣く人とともに泣きなさい(ロマ12:15)」です。これはキリスト者における愛の交わりの基本とも言えます。このような関係が本当に保たれている時には、それが教会の魅力ともなり、「来てみませんか」と誘える教会になって行くことでしょう。しかし何よりもこの聖語を選んだ大きな理由の一つは、言うまでもなく、東日本大震災の被災者の方々を覚えてのことです。

きつつ、実際に被災地の惨状を目にして、心から痛ましさを覚えることは、むしろ被災地の方々の心に寄り添うことになる筈です。



東日本大震災発生時刻の午後2時46分、磯山聖ヨハネ教会で祈りを捧げました。

被災地訪問の目的

9月10日(月)~12日(水)、当教会信徒7人と私で被災地訪問に参りました。

すでに神戸教区からも多くの方々がボランティアとして被災地に行っておられます。しかし、被災地に何らかの支援活動のために行くのならば、ただ視察にだけ行くのは被災地の方々に失礼になるのではという遠慮を持たれるかも知れません。しかし当教会信徒の方々の多くは、阪神・淡路大震災を経験しておられ、惨状への物見高い態度や視線に対する怒りや悲しさは、痛いほど理解できるのではないのでしょうか。そうした思いを理解できるなら、そのことを心に置

時間的、体力的な理由などから、ボランティア活動は出来そうにないと思われる方々を対象に、被災地視察プログラムが、幾つかの教区や教会主催で企画、実施されて来ています。そして「いっしょに歩こう/プロジェクト」でも、そうした訪問に対して仮設住宅や施設などの訪問先の紹介や案内などをしてくださっています。東日本大震災から1年半が経ち、ともすれば被災地への関心が薄まりつつある今、改めてその犠牲の大きさを自分の目で確認し、被災地のことを憶え続けるために、今回の訪問を企画した次第です。

被災地訪問の内容

初日はレンタカーを空港で借り

て、石巻市、女川町、大川小学校、南三陸町の防災センター跡を訪れて、追悼の祈りを捧げました。そして青葉静修館に宿泊。

2日目の9月11日(火)は、まず「いっしょに歩こう/プロジェクト」仙台オフィスに参り、大震災から1年半目を覚え、また2001年の米国での同時多発テロの犠牲者を覚えて、一緒に祈りを捧げました。

その後、福島県新地町ベースに行き、スタッフの松本晋兄から被災状況、新地ベースでの支援活動についてのレクチャーを受けた後、彼の案内で新地町の被災地を回り、磯山聖ヨハネ教会で祈りを捧げました。そして広畑仮設住宅で被災者の方々のお話を聞く機会

を得ました。新地町から仙台への帰路で、園児9人と聖公会信徒の先生が犠牲になったふじ幼稚園、名取市閑上地区に立ち寄りしました。

実際に被災地に立つことにより、改めて犠牲の大きさと、復興の道のりが多難なことを思い、私たちに出来ることは何かについて思い巡らす機会となりました。まずは被災地の状況を教会内や身近な人々に伝え、被災地のことを覚え続けて祈ることが大切かと思えます。

今回の訪問については、より詳しく皆さんにお伝えするための誌面や機会を準備する予定です。そして共に「喜ぶ人とともに喜び、泣く人とともに泣きなさい」のみ言葉を生きることに努めたいと思えます。

定例集会

日 午前7時 早朝聖餐式
 " 9時15分 教会学校
 " 10時30分 聖餐式・説教
 午後6時 夕の礼拝

火 午前10時30分 聖書研究会
 土 午前10時30分 教会掃除
 (ご奉仕をお願いします)